
場面を書いてみよう！「ともえさんと護くんの場合」

三毛猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

場面を書いてみよう！「ともえさんと護くんの場合」

【Nコード】

N1605BA

【作者名】

三毛猫

【あらすじ】

ラノベやゲームなんかでありがちな場面を書いてみよう、とショート仕立てに書いてみたものです。
以前texpにて公開していました。

「昼休みです。お弁当を忘れました。サイフには百円しか入っていません」

さて、今日のおかずは何かなくとお弁当を取り出そうとして、鞆の中に入っていないことに気がついた。一瞬、目の前が真っ暗になった気がした。

待て、落ち着けあたし、よく思い出せ。

朝起きてからの自分の行動を、記憶の中からコマ送りのように再生してみる。

朝ごはんを食べて……このときはまだ弁当箱はテーブルの上にあつたはず。さらに記憶を進めると……、あ！ お母さんが玄関まで持ってきてくれたのに鞆に入れ忘れてる！

く、一生の不覚！ 教科書は忘れても弁当だけは絶対に忘れないハズのこのあたしが、手渡されておきながら鞆に入れ忘れるなんて！ ……しょうがない、今日は学食にでも。

財布を取り出して中身を確認すると十円玉が十枚、つまり百円しか入っていないかった。

なんとツ！ この財布の膨らみようと重さならランチ一食分はあると思っていたのに、すうどんすら食べられないとはツ！

「なあ、冬眠前の熊みたいなツラして、どうしたんだ？」

獲物発見。隣の席の標的は程よく焼けた玉子焼きを口に運ぼうとしているところで、まだ食べ始めたばかりらしく弁当箱の中にはまだ財宝がたんまりと詰まっていた。

「ころしても うばいとる」

「な なにをする きさまー！」

クラスメイトを倒した。お弁当を1個手に入れた！

「馬鹿なこと言ってるねーで、弁当忘れたなら素直に少し食わせると言え！」

「少しじゃ足りないのよっ……！」

奪った弁当をもぐもぐしながら、あれこれって間接キス？ とか

思ったのはナイショだ！

「昼休みです。お弁当を忘れました。サイフには百円しか入っていません」(後

これの前に「幼馴染が、朝起こしに来た」があつたのですが、設定が複雑でわかりにくいという理由で自己ポツにしました。

「ころしても うばいとる」

「な なにをする きさまー！」

は、スクウェアのゲーム、ロマンス・サガの有名なセリフのパクリです。

本文中に名前は出てきませんが、ともえさんと護くんのコンビです。

「放課後です。気になる級友と一緒に帰りたそうにしています」

特に連絡事項も無くHRが終わり、さあ帰ろうと立ち上がったところ呼び止められた。

「ともちゃん、一緒に帰らない?」

「えー、一緒に帰って友達にウワサとかされると恥ずかしいし……」

「それ禁止!　ともちゃんいつからギャルゲのヒロインになったのよ」

「ちなみにそのさなかはサブキャラなので攻略対象外です!　残念でした!」

「何の話?!　誰に話しかけてるの?」

「冗談はさておき、ぶっちゃけ今日はお金がないから、どこにも寄れないけどいい?」

「なんだ、残念。ちょっと一人じゃ入りにくいお店だったから、一緒について思ったんだけど」

「おごってくれるなら、付き合っけど?」

「ともちゃん、わたしの三倍は食べるじゃない」

「あたしはシヤア専用なのだ!」

「関係ないし!　しかもスピードじゃなくて消費が三倍とか燃費悪すぎだし!」

「ちなみに下着の色が上下とも赤です。ジオングはなんで赤くないんだろ?」

「どうでもいいから!」

さなかと二人でいつものように馬鹿をやっていたら、隣の席のあいつがあきれたようにこちらを見ていた。

「あたしの分、出してくれるなら、あんたも来ていいよ?」

「人の弁当を全部食った上に、おこれとぬかすか貴様は……!」

そう言いながら、しっかりとついてきておごってくれるあたりが甘いなーと思う。

そんなことばかりしていると、勘違いしちゃっみやっ。あたし。

「放課後です。気になる級友と一緒に帰りたいそうにしています」(後書き)

「一緒に帰って友達にウワサとかされると恥ずかしいし」は有名な恋愛シミュレーションゲーム「ときめきメモリアル」からのパクリです。ノリだけで書いていろいろ反省するところが多いです。

結局のところ最後の一文を書きたかっただけだったり。

「夜です。おなかがすきましたが、今日は親が家にいないので自力でなんとか」

おなかへったなく、お母さん遅いな〜と思いながら、何か簡単に食べられるものは無いかと台所へ向かって、テーブルの上に書置きがあるのに気がついた。

「急な用事でお父さんと出かけます。帰りは遅くなりますので、これで適当に何か食べてください……?」

書置きと一緒に千円札が二枚も置いてあったので、うむ、とひとつづなずいて自分の財布にしまう。家にあるもので適当にご飯をすませてしまえば、これは全てあたしのおこづかい

臨時収入うれしいなの歌を歌いながら、炊飯器の中をのぞくと……空だった。

冷蔵庫の中を確認する。レンジでチンするだけの冷凍食品はない。お野菜やらの材料はあるが、調理しないですぐに食べられそうなものは入っていないかった。

く、このあたしに料理をしろというのかっ！ 少し考えてから、あいつに電話してみる。

「暇なら、うちに来ない？ なんかご馳走するからさ」

『……飯作れ、ってはつきり言え』

ああ、ばれてる。

やってきた彼は、ざっと台所を見回して、「パスタがあるな」といってすぐにゆで始めた。

にんにくとたまねぎとベーコンをオリーブオイルでさっと炒めて、茹で上がったパスタを絡めて塩と味の素で味を調べ、最後に刻んだかつお梅をまぶす。

「うめぼしパスタだ」

「ありがとう！ 料理できる男の子ってステキ！」

あたしはすっかり、餌付けされています。

「ところで今日、親、帰りが遅いんだけど……お礼にあたしたべて

く？」

あたしが言つと、あいつはぶほつとふき出して、鼻からパスタた
らしてた。失礼なヤツ。

「夜です。おなががすきました、今日は親が家にいないので自力でなんとか」

ともえさんと護くん。肉食系女子と草食系男子。別に女の子が料理できなきゃいけないってわけじゃないんですけど、うちの妹は彼氏できるまではまったく料理しようとしなかったな、などと思いつつながら書いたお話。

うめぼしパスタはけっこうおいしいですよ。

「お風呂に入ろうとしたら、先に誰か（異性）が入っていました」

「ご飯も食べたし、あとはお風呂入って寝るだけかな。あくびをしながら脱衣所でぼんぼんと服を脱いで洗濯機に叩き込む。浴室のドアを開けると湯気がむわつと漂ってきた。

あれ、お湯下ろしたっけ？ シャワーで済ますつもりだったんだけど。

浴室のドアを閉めて、シャワーの水栓をひねったところで気がついた。

「う？ あんた、なんでそんなとこにいるの？ 帰ったと思ってたのに」

浴槽にどこかで見たようなヤツが浸かっていた。

「……俺、風呂借りるぞ、って言ったよな？」

大事なところを両手でしっかりと隠したままヤツが言った。

「そうだったっけ？」

「ゲームに負けた腹いせに、ジュース俺にぶっかけたのおまえだろうが！ いや、それよりもまずお前は隠すべきところを隠せ、っていうか先に入ってたのは俺なんだし出てけ！」

「幼稚園のころとか、よく一緒にお風呂はいつてたじゃん。いまさら気にする仲でもないでしょー？ どんだけ成長したか、よく見なさい！」

「今は俺もお前も、高校生だっ！」

「あたしもうシャワーで濡れちゃってるし、今更出てくのやだからね。だいたいうちのお風呂なんだし、浴槽には入らないからしばらく我慢しなさい。それがイヤならあんたが出てけ！」

そう言ってスポンジにボディークリームを塗りこませて、ごしごしと身体をこすり始めると、ヤツは黙ってそっぽを向いた。見ていいって言ってるのに、よそ向かれてなんだか悔しかったのでシャワーをヤツの顔面に当ててやったら、ぶはって言って浴槽の中で足滑ら

せてぼこぼこ泡吹いてた。いい気味！

……ちなみにヤツのは意外と大きかったです。

「お風呂に入ろうとしたら、先に誰か（異性）が入っていました」（後書き）

ともえさんと護くん。

いわゆるお風呂場でのドキドキイベントって、女の子が入ってるところに男の子が入ってきて女の子が「キヤー」っていうか、男の子が入つてるところに、女の子が入ってきて「キヤー」ばっかりだな、とエロゲ的展開にならない程度に変化球を狙ってみました。

短いですが一応これで終わりとなります。ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1605ba/>

場面を書いてみよう！「ともえさんと護くんの場合」

2012年1月4日01時51分発行